

三三二九番

白雲しらくもの たなびく国くにの 青雲あをくもの 向伏むかぶす国くにの  
天雲あまくもの 下したなる人ひとは 我あのみかも 君きみに恋こふらむ  
我あのみかも 君きみに恋こふれば 天地あめつちに 言ことを足たらは  
し 恋こふれかも 胸むねの病やみたる 思おもへかも 心こころの  
痛いたき 我あが恋こひぞ 日ひに異けに増まさる 何い時はしも  
恋こひぬ時ときとは あらねども この九月ながつきを 我わが  
背せ子が 偲しのひにせよと 千代ちよにも 偲しのひ渡わたれと  
万代よろづよに 語かたり継つがへと 始はじめてし この九月ながつきの  
過すぎまくを いたもすべなみ あらたまの 月つきの  
変かはらば せむすべの たどきを知らに 岩いはが根ね  
の こごしき道みちの 石床いはとこの 根廻ねぼへる門かどに 朝あした  
には 出いで居ゐて嘆なげき 夕ゆふへには 入いり居ゐ恋こひつつ  
ぬばたまの 黒髪くろかみし敷しきて 人ひとの寝ねる 甘睡うまいは寝ねず  
に 大舟おほぶねの ゆくらゆくらに 思おもひつつ 我わが寝ぬ  
る夜よらは 数よみもあへぬかも